ボラマガ

～ボランティアセンターマガジン～

平成２３年１０月１５日号　第２号

発行　社会福祉法人 神栖市社会福祉協議会 ボランティアセンター

〒314-0121　神栖市溝口1746番地1

ＴＥＬ：0299-93-1029　ＦＡＸ：0299-92-8750

ホームページ　http://www.kamisushakyo.com/vc/

メールアドレス　mail@kamisushakyo.com

ボランティアグループ紹介

空飛ぶ車いすin神栖

東北の被災地に車いすを届けることができました

かみす社協ニュース１月号の車いす修理ボランティア募集の記事を見て「長年磨いてきた技術を活かせる！」と集まった地元企業の元機械修理技術者の男性５人が「空飛ぶ車いすin神栖」を立ち上げました。

２ヶ月間の試行錯誤を重ね、今年３月初めには２台の車いすの修理を終えることができました。海外で必要としている方に車いすを贈ろうと準備を進めていましたが、東日本大震災が起こり、活動は一時休止となってしまいました。

中心的な被災地で暮らす皆さんの力になれないだろうか、と考えたボランティアの５人は「修理した車いすを東北の被災地に届けることは出来ないだろうか？」という思いを強くします。「空飛ぶ車いす」の支援を行っている日本社会福祉弘済会から「東北の避難所や福祉施設で多くの車いすが必要とされている」という情報を聞き、５人は「なるべく多くの車いすを贈ろう！」と心を一つにし、現在までに７台の車いすが東北の被災地に贈られました。

「空飛ぶ車いすin神栖」の活動は新聞やテレビで紹介され、車いすを提供したいと多くの方からお話をいただくようになりました。これからも必要としている方に車いすを届けたいとメンバーは話します。

『空飛ぶ車いす』とは？

便われなくなった車いすを修理・再生し、アジアの人たちに贈る活動です。車いすの提供を受け、ボランティアが修理し、パンクしないタイヤに交換します。輸送ボランティアによって海外旅行時の手荷物として車いすが運ばれ、現地での受取り運搬ボランティアに手渡されます。活動資金は書き損じハガキが支えています。神栖社協に寄せられた書き損じハガキは日本社会福祉弘済会に送られ、未使用ハガキと交換されます。ハガキは協力企業が購入し、車いすの修理部品や輸送等ボランティアの活動支援の資金となります。

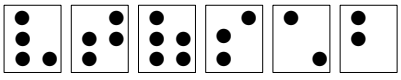
神栖市で活動するボランティアグループ紹介

ひとみの会　～視覚障害を抱える方と地域をつなぐ活動で２０年～

「ひとみの会」は、市内で発行されている“かみす社協ニュース”“ボランティアセンターマガジン”“広報かみす”の３つの広報紙を、視覚障害のある方のために点字に翻訳すること（点訳）を中心に活動しています。また、社協が実施している福祉教育出前講座や夏休み体験教室に協力し、市内の児童生徒に点字を教えています。平成４年、社協が開催した点字講座を受講した小島真知子さん(ひとみの会代表)を含めた３名が中心となり結成され、現在は１２名が毎月２～３回、神栖市保健・福祉会館の交流サロンに集まり活動しています。

点訳は、原稿から文字データだけを取り出し、そのデータをパソコンの点訳ソフトで漢字などを『かな』に変換する作業から行います。（例：ひとみの会→ひとみのかい。下図のようになります）

一番大事な作業は変換後で、原文との相違や漢字の読み（特に人名の読み方）、視覚障害者が読みやすいように文節でちゃんと区切られているか等の読み合わせです。読み合わせはメンバー全員で２回行い、点訳は句読点や記号など細かなところまでルール化されているのでそれに従ってチェックをしますが、視覚障害者の方が読みづらくないか、また紙面に必要な絵がある場合には絵の説明を入れたりと“読みやすさ”を考慮・工夫しながら読む方の気持ちになって、点訳しています。最後に点字プリンタで出力し、完成となります。



ひ　と　み　の　か　い

点字は、縦３点×横２点の６つの凸状の点の組み合わせによって表されます。

点字プリンタ

点訳された「社協ニュース」

現在は広報紙の点訳を主に行っていますが、ひとみの会を立ち上げた当時は、視覚障害者の方から電化製品の取扱説明書の点訳を頼まれていたそうです。障害者への理解が深まった現在は、メーカーに問合せすると点訳された説明書が送られますが、昔は用意されていなかったそうです。説明書を見ても分からないときは電気屋さんまで行き、使い方を聞いたり調べたりしながら点訳しました、と昔のエピソードを代表の小島さんが教えてくれました。

「ひとみの会」新メンバー３名のお話

○２０歳の安楽さんが点字との出会ったのは、小学生の頃に社協が実施した福祉教育出前講座。その時、ひとみの会の方に点字を教えて頂いたのが興味を持ったきっかけとのこと。メンバー全員親切なので毎月の活動が楽しみだそうです。

○市外から参加している遠藤さんは、ボランティアをするなら一番視覚障害者の方に助けが必要だと思い、通信教育で点字を学んだ後ひとみの会へ入会ました。パソコンでの点訳の仕方などまだまだ勉強中です。ひとみの会は、同年代のメンバーもたくさんいて、自分の居場所の一つになっています。

○ふれ愛フェスティバルで「ひとみの会」を知り、点訳は大変な作業だと思っていましたが、パソコンでの点訳と聞き、難しく考えず入会することができたと話す藤原さんは、今年の夏に加入したばかり。今後、実際に点字を使っている視覚障害のある方とのお話や交流をしたいと話してくれました。

「ひとみの会」今後の活動

技術的なレベルを上げるのも大切ですが、みんなで仲良く楽しく活動することが長く続けられる秘訣だそうです。また自分が点字講座を受講したのをきっかけで、現在のメンバーや色々な方と出会うことができ、活動範囲を広げることができたため、メンバーのみなさんには福祉教育出前講座や広報誌の点訳だけではなく、点字を通じて色々なことに挑戦してもらいたいと小島さんは話します。

ファミリーサポートセンターのご案内

かみすファミリーサポートセンターは、子育てに関して手助けをして欲しい人と手助けをしたい人をつなぎ合わせる活動を行っています。ご利用には事前登録が必要です。下記までお申し込み下さい。

◆利用対象：市内在住・在勤の生後２ヶ月以上のお子さんを持つ方　※登録必要
◆活動内容：保育園・幼稚園・学校などの帰宅後や、学校・園行事・冠婚葬祭・講習会等お子さんを連れて行けない時の預かりなど
◆利用料金：１時間あたり　**7:00～19:00【650円】**　左記以外の時間帯【750円】
◆預り場所：サポーター宅や子育てサポートセンター、児童館などの公共施設
◆問合せ先：かみすファミリーサポートセンター
神栖本所　0299-93-1029（担当：横田・高森）
波崎支所　0479-48-0415（担当：馬場・沢田）

ファミサポ体験記

**中村さん(写真左)と
サポーターの佐藤さん(写真右)**

はじめてファミリーサポートを利用した中村さんから感想が寄せられました。

「家族以外の人に娘を預けたことがないけれど大丈夫だろうか…」という不安を抱きながらも、下の息子の４ヶ月健診のときにサポートを利用しました。

娘が泣いたらすぐに会いに行けるように、という私の希望で健診を行う保健センターで娘をみていただきました。始めは泣きべそだったのに、帰りはなかなかその場を離れようとしない娘を見て、楽しい時間を過ごしたんだろうなと感じ、不安も吹き飛びました。

サポーターさんに一対一で丁寧に対応していただき感謝しています。お陰様で私も息子の健診に集中することができました。また機会があったら利用させていただきます。

お知らせ

こわれたおもちゃ修理します！

「神栖おもちゃ修理ボラ」は定年退職をした３人のお父さんたちのグループです。エコ・リサイクルをモットーにおもちゃの修理をしています。直したいおもちゃがありましたら、お持ち下さい。

◆日時：毎月第1月曜日 午前10時～正午　　◆費用：作業料は無料【部品代のみ実費】
◆場所：神栖市保健･福祉会館 2階　ボランティアセンター交流サロン

「宮城県災害ボランティアバス」一般ボランティア大募集！

がんばろう日本！
がんばろう東北！

茨城県社会福祉協議会より、東日本大震災により大きな被害を受けた宮城県で活動する災害ボランティア募集の案内が届きました。神栖市からも多くの皆さんが参加されています。被災地でのボランティア活動を希望されている方は、ぜひご参加下さい。

活動場所：宮城県石巻市又は他の主な活動地を予定
活動内容：主に泥のかき出し、家財運び出し、瓦礫撤去、清掃、漁業復興のお手伝い等

＜日程＞【水戸コース】
○日帰り　　10月23日(日)、29日(土)、30日(日)　【参加費】1人3,000円
○1泊2日　　10月22日(土)～23日(日)　【参加費】1人12,000円
バス乗車地：茨城大学前・水戸駅南口・那珂市役所前（午前3:00～4:30頃発車）
※11・12月も予定しています。日程は下記までお問い合わせ下さい。

＜申込・問合せ先＞石塚サン・トラベル(株)　TEL:0120-317-055　FAX:029-224-0603
ホームページからも予約ができます　http://www.ishitsuka.co.jp/

ひとり暮らし高齢者交流事業

神栖社協では、ひとり暮らし高齢者の社会参加の促進や親睦を深めることを目的として、ボランティアさんにご協力をいただき、「さわやか会食」「日帰り遠足」を実施しています。

さわやか会食。豪華なお弁当に会話も弾みます

【さわやか会食】　参加費無料

神栖・波崎地区それぞれ年２回実施し、ボランティアさんによる手作り料理と様々な演芸により、楽しいひと時を過ごします。

日帰り遠足。昨年は「茨城空港」を見学しました

【日帰り遠足】　参加費：1,000円

神栖地区と波崎地区それぞれ年１回、遠足を実施しています。今年度は、成田市方面へのバス旅行（ようかん工場見学、米屋観光センター、成田山新勝寺）を予定しています。

★65歳以上のひとり暮らしの方で参加を希望される方は、神栖社協(神栖本所:0299-93-0294、波崎支所:0479-48-0294)、またはお住まいの地区の民生委員さんへご連絡下さい。

ひとり暮らし高齢者交流事業は赤い羽根共同募金の配分金によって実施されています。
神栖市では１０月３１日までを赤い羽根共同募金の運動期間とし、行政区を通じて、また、市内各所の募金箱設置協力店にてご協力をお願いしています。